

551

百人一首

301
13

3 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4

始





伊勢山田住光貞妻

きりぎりす

あき

いよ

あき

あき





江戸位未得

くすりのや

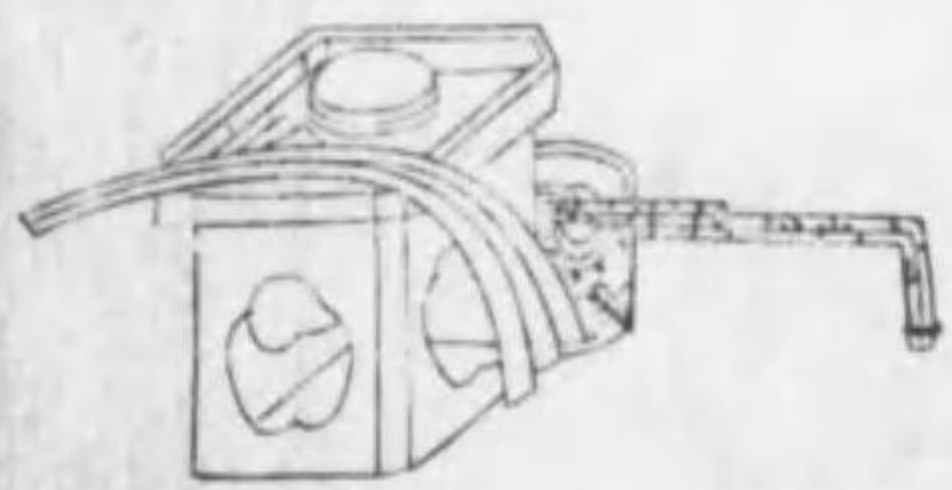
まね

のみ

初ぬ

らみ

春



象戯なりてあま

かろ

総馬

かれ

寂光寺泰秀



大津之伝重札

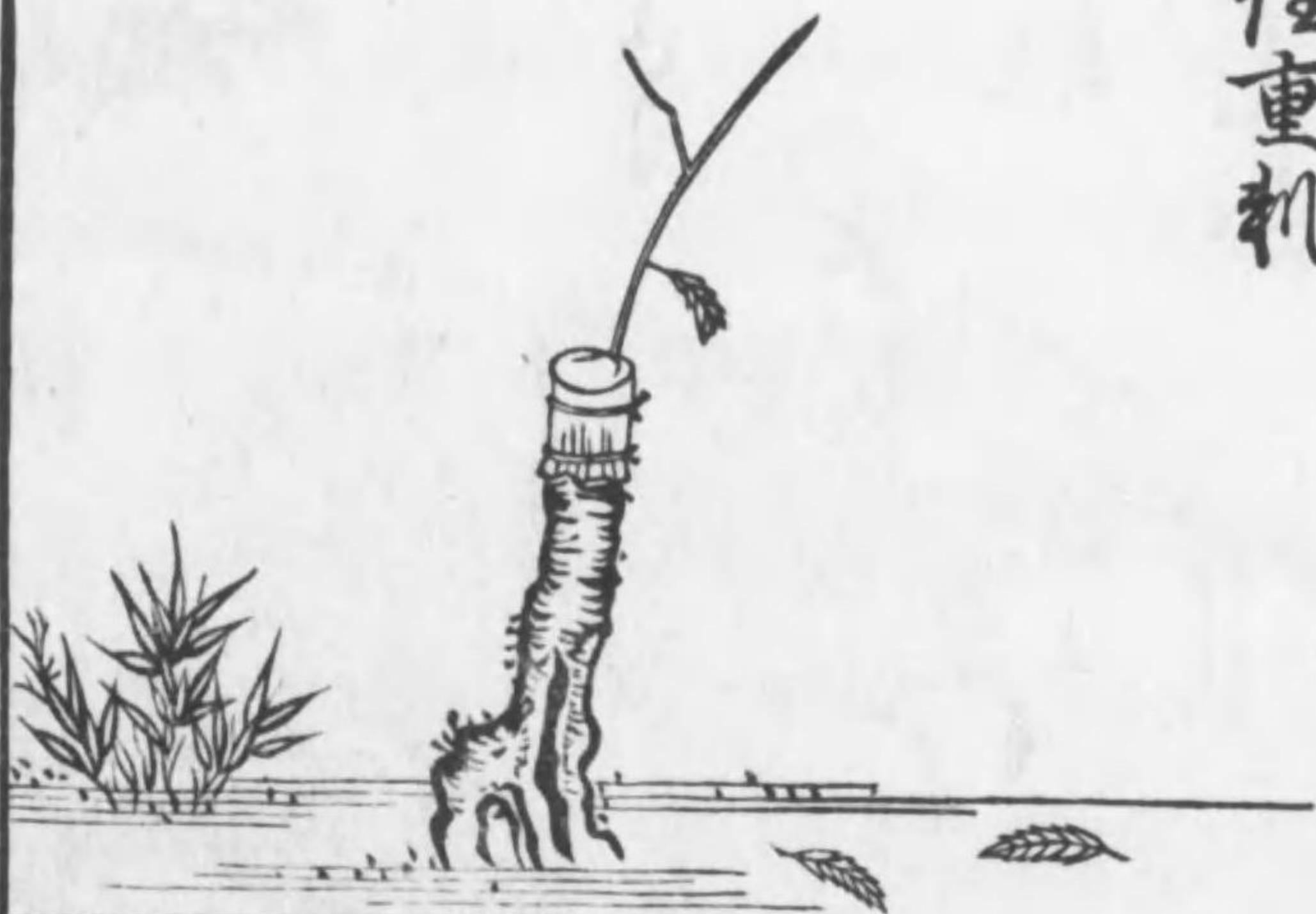
あひ思ふそと

うきわろ

花乃

絶

穂乃



八木氏書集

ねまのこ

あて

夕ふそ

紙書集

あて



東海氏正頼

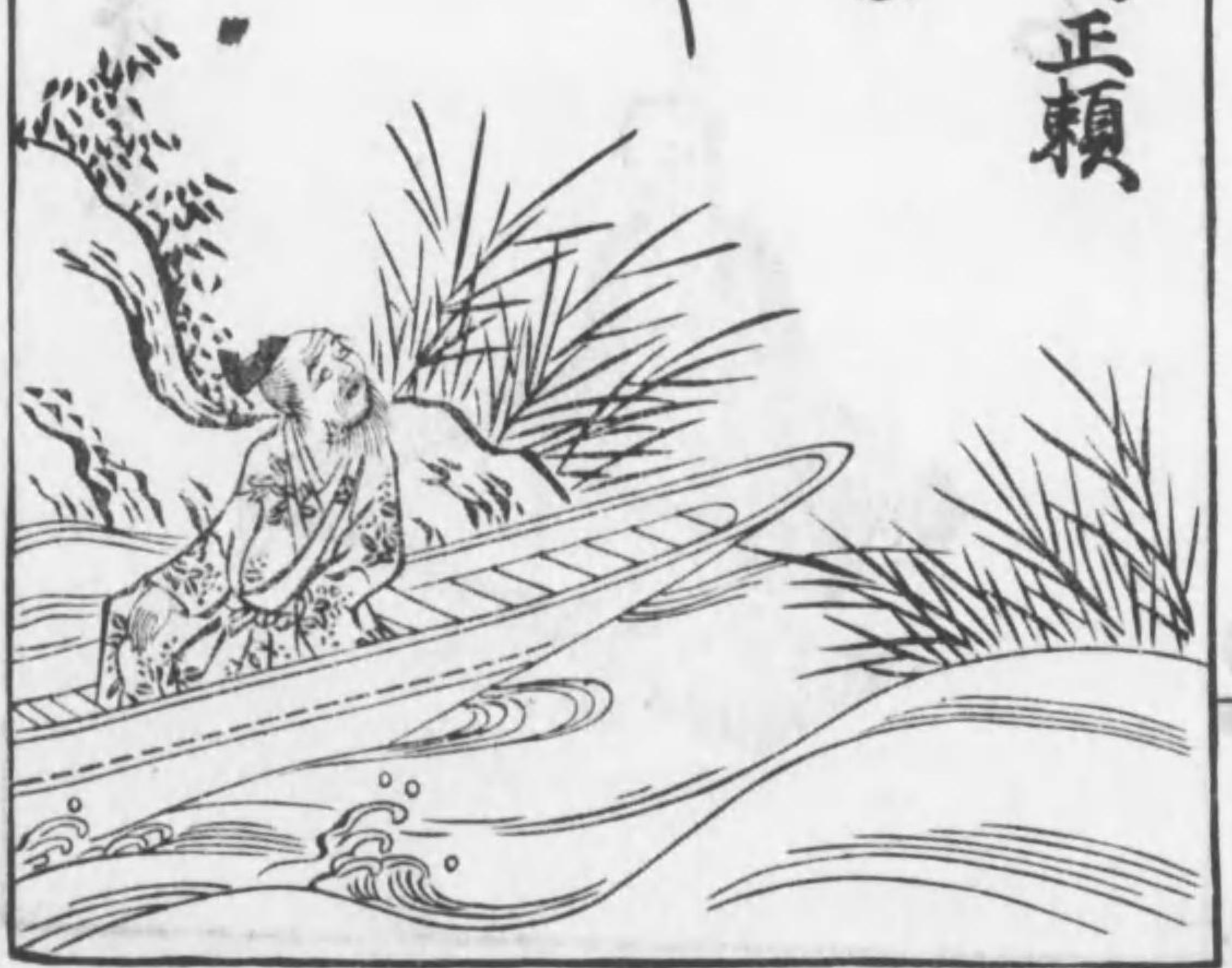
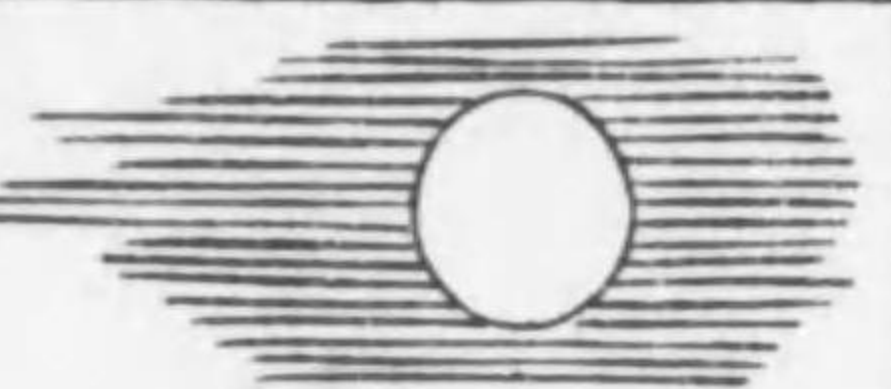
老花なほ

そら花や

月を見

あま

志ハ



掬之住一正

風流

おひて

ひそふ

甲

あま

ふ







五月あや

山鳥の尾の

あ~~~~天

榎之任慶友



一滴

あ~~~~天

雪よ

かくれ

叢
毛
の
影

宗祐

祝竹の子とよ

ゆる

わらよ
ま



紀列之住宗朋

あ水色

巻を

い川之

まね

る



錫氏定重

春の夜や

とたり

あつせ

ぬ

衣

かへ



七葉に

楓を

まじ

いろは

か那

重貞



大坂之住静寿

月之影如

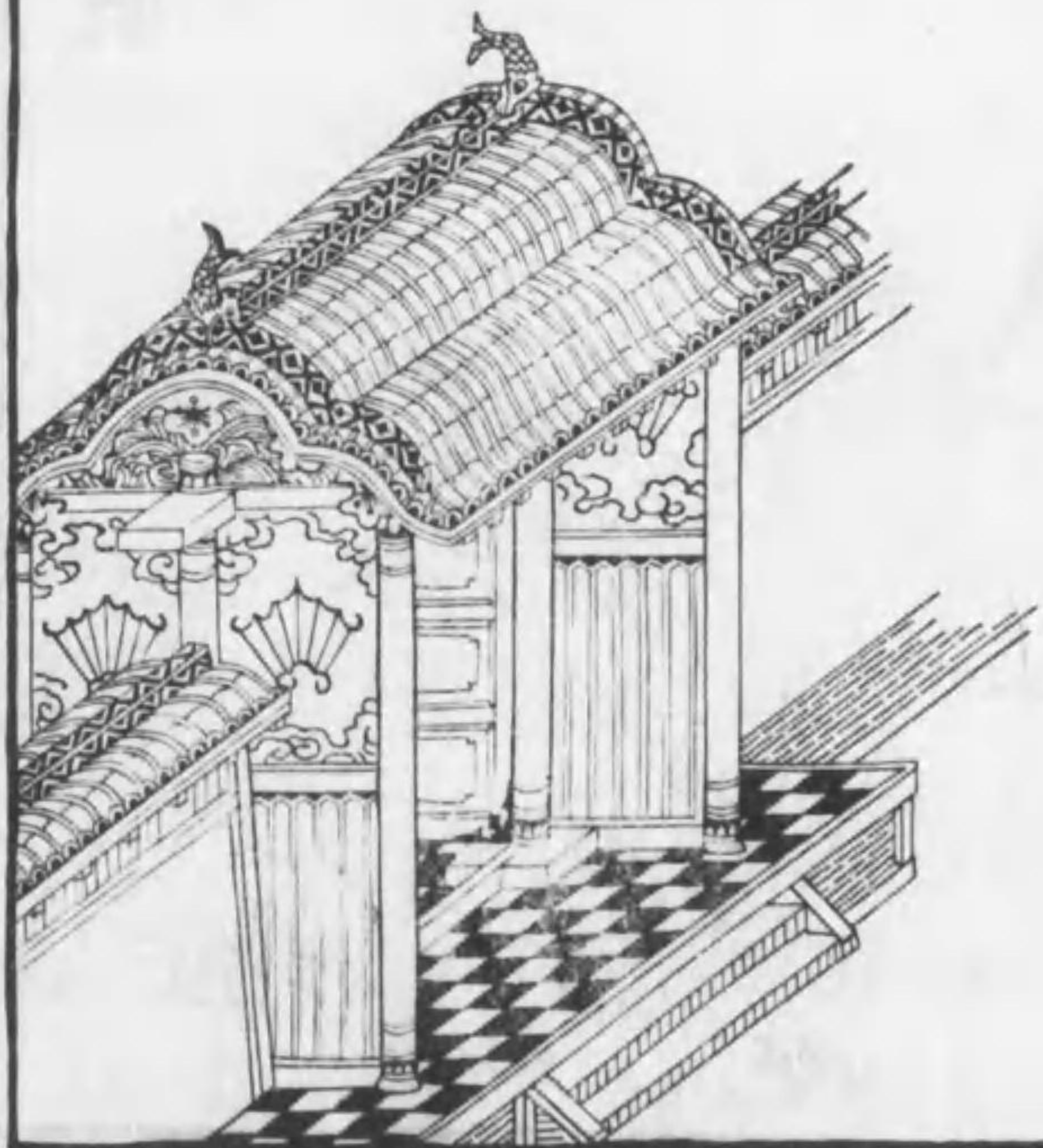
蓮ハ

如光

や

不老

門



越前本勝寺上人

目録

木葉佐庵

字交

草

月夜光

雨雨





大坂之住室存

白壁也

空り

あつれ也

雪が

着



意翔

あつれ也

あまふてし

かけ

子規





照星

まの

つ

皮肉

骨

あつ

厚字

あ

長吉

梅うきやうき流

新床の卓香

燵



常辰

くろく 龍目

るるや

さよ

あ



中川氏喜雲

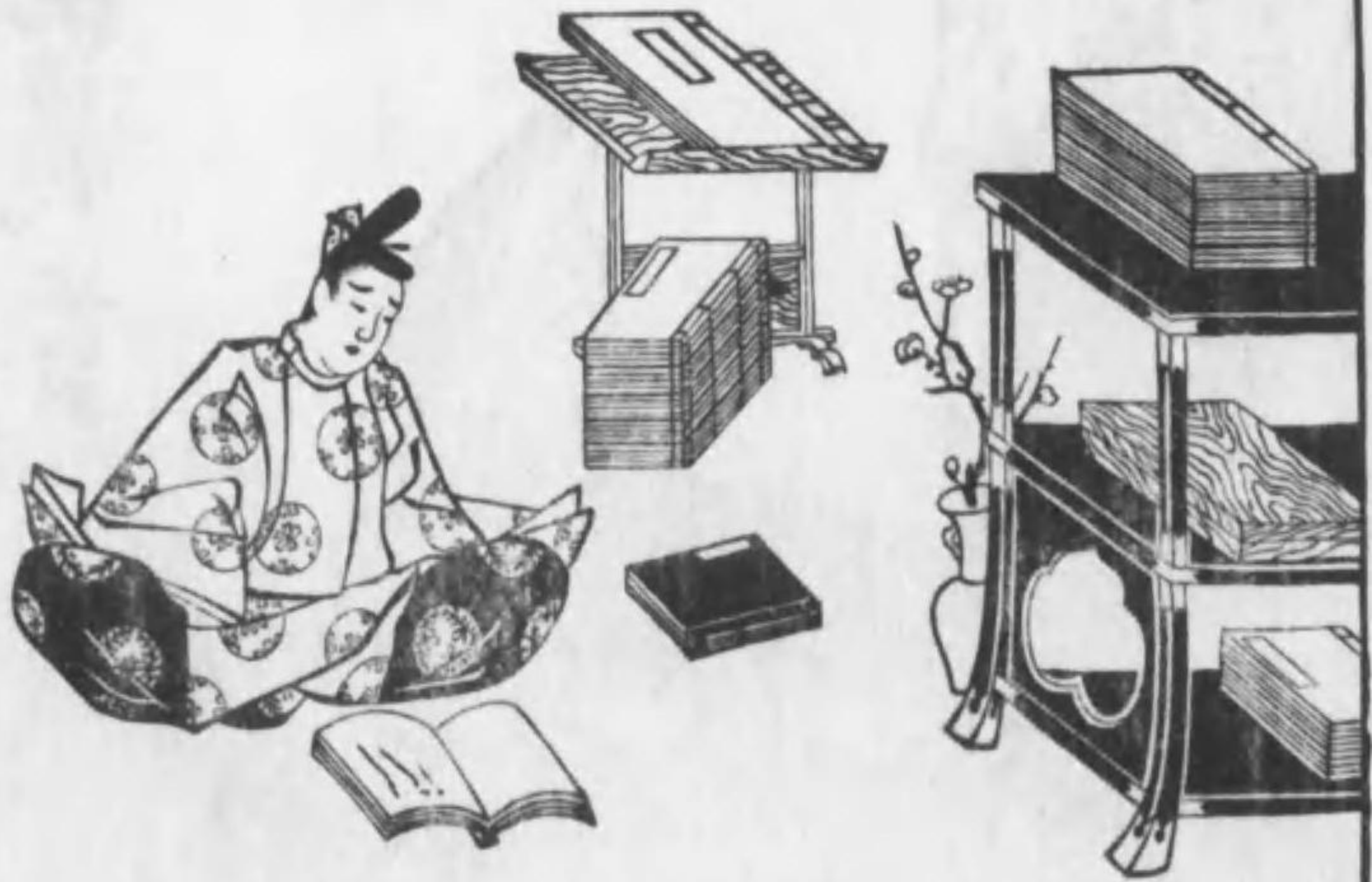
元日や

あや

はと

君子

園





新雲乃白出もかや
 けしの月
 伊波氏頼富



ほろりし
 ちかや
 花乃
 かん

和加郡山池田氏正武



一雷

西天北下

卒度也

之社也

五月

之形



博之住弘永

山之嶺

野ハ

金葉法

花見

加那

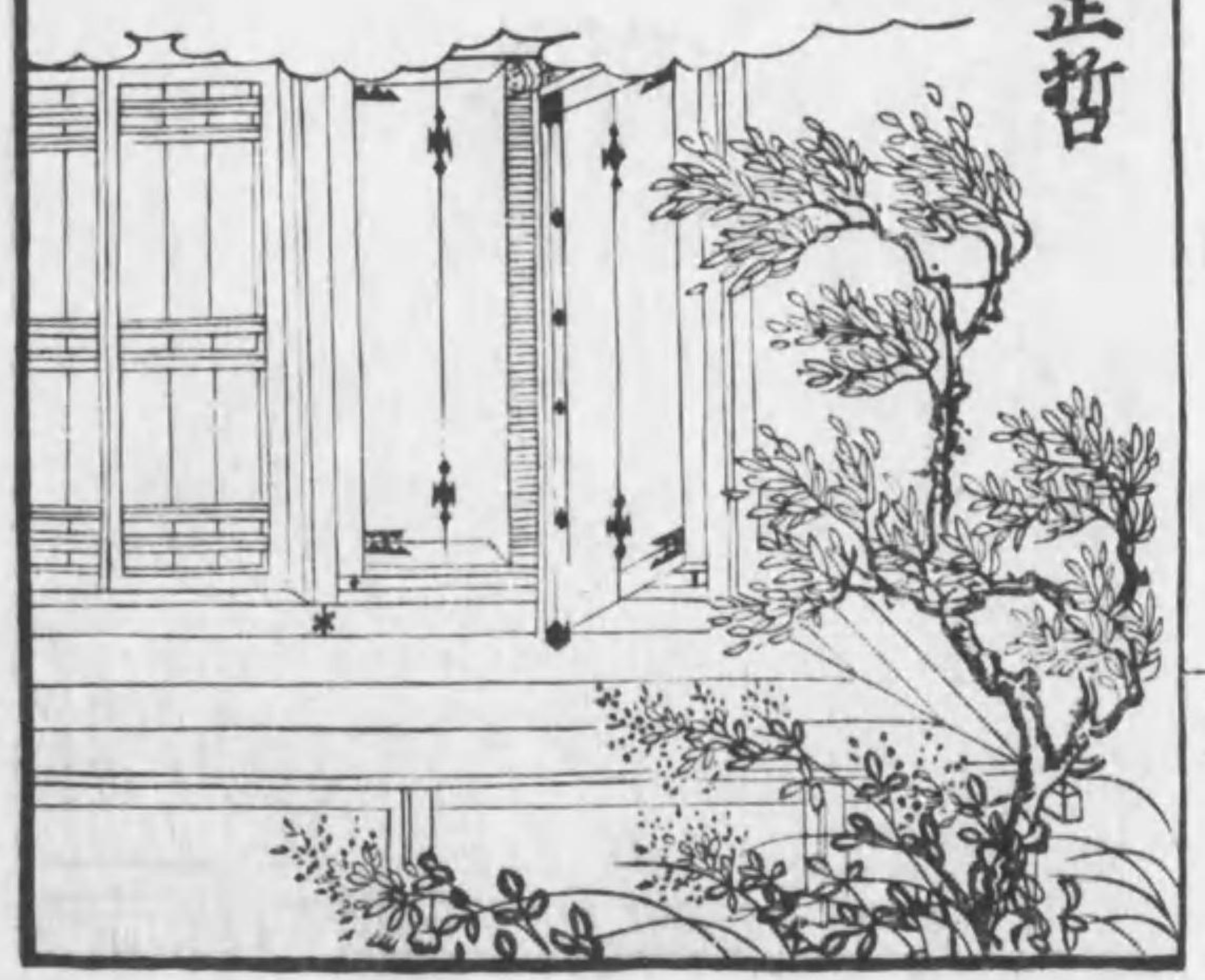
是正哲

戸をくくると

何と云ふ

秋結

風



由雷

舞乃句はけり

なまこ

年枕



丹後住小嶋氏定次

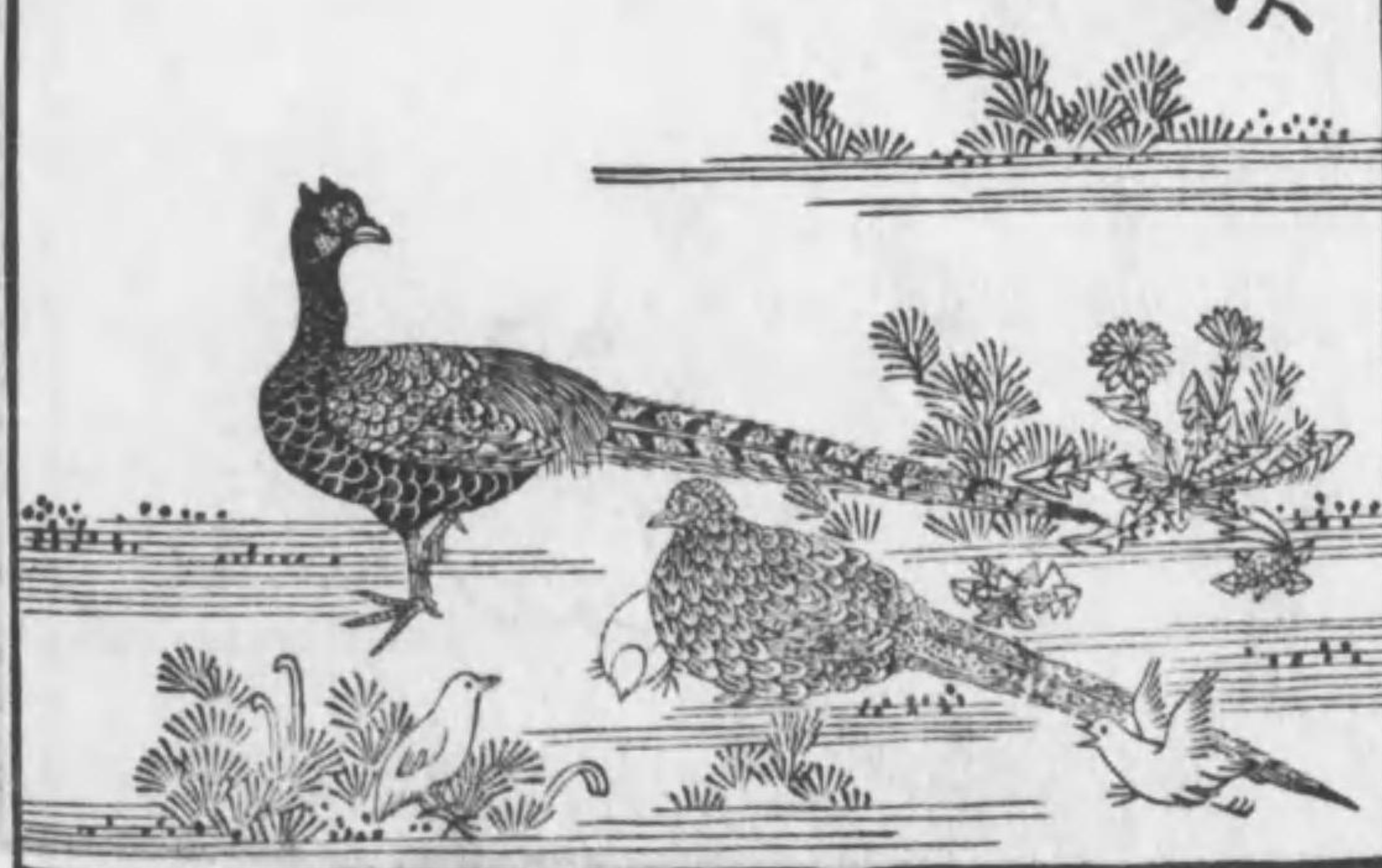
子ゆへに

かきし

雉子法

こう純

死



紀列之住正平

我々友之

木篇之風也

桐小



住田氏政信

花如風も

いのれ

うんきり

あつま

山



尾加之佳池田氏ノ身

廻文

如舟の

出づり

舟

橋

草





日之好

勝延

我身也之り

三九

美



遊仙乃

枕香

なれや

さく如
花

菟本氏惠侗





小嶋氏宗賢

名ありおろし

あふりし

何と云

龍尊



二千里
法

保賢屋

古人語

胸志月

江戸蝶々子

如貞

君のまや

尺のすそ

川乃

教万葉



伊東氏則常

ちきりわき

ひまはら

餅

し



伊勢山田住孝晴

螢火虫

川北

洲中
表

炎

如那



愚乃和尚

大物くち

葉乃

あつこ

梅乃





渡邊氏重

五月五日

雲々

月日

あま

戸水



伊勢住望一勾當

面て志願

神樂

乙女

化粧

加

伊勢山田之佳守武

青柳乃眉々々

岸々々

頰々



誹諧之為法蓋似君子之道歟語其迹則夫婦之愚可以與知焉及其至也天地之大萬物之多皆無非其用矣游此藝者不行而知異域不求而得資財不鼓而聞琴瑟不著而見奕棊後春向花先冬對雪闇夜摸索月暑天勾引涼至若仁山智水禮園學畝開口為付句弄筆為發句豈不娛乎予寓詞林于茲有年朝吟暮詠不知手之舞之足之踏之雖然未逢師範則無所適從故撰古今之作者百人置之座右以備省

301
13

覽非敢示他人聊記之欲為曲材之繩墨而已
於是乎跋

萬治庚子秋九月望日

洛下書林 谷口三餘板行

新町通長者町_下 本頂妙寺町

昭和十年二月廿五日印刷
昭和十年二月廿八日發行

第九期
第四回

編輯委員會

品賣非

東京市牛込區富久町八十四番地
編輯委員會
山田清作
佐藤謙之介
阿部鶴五郎
池上幸二郎
本著者
東京市牛込區富久町八十四番地
發行所
米山堂

電話三三〇六

終